

# 令和4年度 国東市：全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

## 1 結果のポイント

### ・全体結果

対象生徒数	平均正答率 (%)
<b>国東市 (178人)</b>	<b>70</b>
大分県 (公立 8,571人)	69
全国 (公立 891,820人)	69.0

### ・分類別結果

分類		区分	平均正答率 (%)		
			国東市	大分県	全国
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	<b>71.0</b>	72.5	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	<b>56.7</b>	47.9	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	<b>71.9</b>	70.6	70.2
	思考力・判断力・表現力等	A 話すこと・聞くこと	<b>63.5</b>	63.7	63.9
		B 書くこと	<b>56.7</b>	47.9	46.5
		C 読むこと	<b>69.9</b>	67.5	67.9
評価の観点		知識・技能	<b>69.8</b>	69.5	69.0
		思考・判断・表現	<b>64.5</b>	62.3	62.3
		主体的に学習に取り組む態度	-	-	-
問題形式		選択式	<b>73.3</b>	73.7	73.7
		短答式	<b>69.8</b>	70.9	70.3
		記述式	<b>62.2</b>	57.5	57.4

- ・平均正答率での全国平均との比較では、+1.0ポイント全国平均を上回った。
- ・内容別の全国平均との差は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で-1.2ポイント、「情報の扱い方に関する事項」で+10.2ポイント、「我が国の言語文化に関する事項」で+1.7ポイント、「話すこと・聞くこと」で-0.4ポイント、「書くこと」で+10.2ポイント、「読むこと」で+2.0ポイントであった。

## 2 課題が見られた問題と指導の改善事項

### 1 スピーチをする（「最近気になったこと」）

#### 設問一

#### ①趣旨

- ◆聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができるかどうかをみる。
- ◆学習指導要領における内容  
〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと  
ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。  
《表現、共有（話すこと）》

## ②解答類型と反応率

1 一	生徒数の割合	
問題の概要		
スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す。 (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると 感じます。」という部分について、どのような言葉を加えて直すと呼び かけたり問いかけたりする表現になるかが分かるように書いている。 ② 実際に話すように書いている。 (正答例) ・皆さん、最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきて いると感じませんか。 ・最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感 じます。皆さんもそう思いませんか。	国東市	全国
◎ 1 条件①、②を満たして解答しているもの	73.6	74.7
2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.1	0.2
3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	18.0	19.6
4 上記以外の解答	3.9	1.7
5 無解答	3.4	3.8

◎は正解

### ◆分析と課題

- 解答類型2については、実際に話すように書くことができていないものである。解答類型3については、話し手の伝えようとしている内容を踏まえることはできているが、どのような言葉を加えて直すと呼びかけたり問いかけたりする表現になるかについて考えることができていないものや、呼びかけたり問いかけたりする表現にすることはできているが、話し手が伝えようとしている内容を伝えることができていないものが見られる。解答類型4については、二つの条件を満たしていないものであり、問題を確実に捉えて解答できていないと考えられる。

## ③学習指導に当たって

### 聞き手を意識し、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫する

自分の考えを話す際には、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、呼びかけや問いかけをしたりするなどして、相手に分かりやすく伝わるように表現を工夫することが大切である。

例えば、複数のスピーチを比較し、それぞれの話し方の工夫について確かめるなどの学習活動が考えられる。その際、ペアやグループでそれぞれのスピーチを比べたり、他学年のスピーチの動画を視聴したりして、分かりやすく伝えるための具体的な工夫について考えるように指導することも重要である。

## 設問二

### ①趣旨

◆論理の展開などに注意して聞くことができるかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第2学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

《構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）》

### ②解答類型と反応率

1 二	問題の概要	生徒数の割合	
		国東市	全国
	話の進め方のよさを具体的に説明したのとして適切なものを選択する		
1	1と解答しているもの	12.9	11.2
2	2と解答しているもの	4.5	6.0
◎3	3と解答しているもの	63.5	65.1
4	4と解答しているもの	19.1	17.5
5	上記以外の解答	0.0	0.0
6	無解答	0.0	0.1

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型1、2、4の反応率の合計は36.5%である。このように解答した生徒は、話し手が伝えようとしている内容と、その内容を分かりやすく伝えるために挙げた事例との関係を捉えることができず、話全体がどのようにまとめられようとしているのかを考えることに課題がある。

解答類型1、2の生徒は、川口さんが「一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくい」と述べていることを捉えることができているものと考えられる。解答類型4の生徒は、「やりとりをスムーズに行うための方法の一つである「相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」という「友達が話してくれた言葉」を、「やりとりをスムーズに行いにくい」ということの例と捉えたものと考えられる。

### ③学習指導に当たって

#### 情報同士の結び付きに注意しながら聞く

話し手の考えを聞いて自分の考えをまとめる際には、情報同士の結び付きに注意しながら、話の要点を捉えたり、意見に対する根拠の適切さを判断したりして聞くことが大切である。その際、第2学年〔知識及び技能〕の(2)「ア意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。」との関連を図り、意見を裏付けるためのより適切な根拠の在り方について理解を深めるように指導することが有効である。

例えば、互いのスピーチを聞き合って質問や助言をする場面を設定するなど、自分が聞き取って理

解したことや考えたことを確かめたり共有したりするなどの学習活動が考えられる。

### 3 文学的な文章を読む（「都会のビーチ」）

#### 設問一

##### ①趣旨

◆表現の技法について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。《表現の技法》

##### ②解答類型と反応率

3 一	生徒数の割合	
	国東市	全国
問題の概要 「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 「比喩」、「たとえ」のように解答しているもの。 * 「比喩」、「ひゆ」、「比喩法」、「直喩」などと解答しているものも正答とする。 ② 「陽炎みたいに揺らめきながら」と同じ表現の技法が用いられているものとして3を選んでいる。		
◎ 1 条件①、②を満たして解答しているもの	42.7	52.5
2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	1.1	1.1
3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	46.6	37.4
4 上記以外の解答	9.0	8.4
5 無解答	0.6	0.7

◎は正解

◆分析と課題

○ 解答類型3の反応率は46.6%となっており、このように解答した生徒は「陽炎みたいに揺らめきながら」と同じ表現の技法が用いられているものは選択できるが、表現の技法の名称が比喩であることを理解できていないものと考えられる。また、直喩や隠喩、擬人法などの比喩の種類を理解することができていないものとも考えられる。

##### ③学習指導に当たって

## 表現の技法を理解し、表現の仕方や効果の違いについて考える

文学的な文章を読む際には、文章の構成や展開、表現の効果について根拠を明確にして考えることが大切である。表現の効果については、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えることが重要である。その際、描写の仕方や表現の技法などに着目することが考えられる。

表現の技法については、小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法をその意味や用法と結び付けて理解し、話や文章の中で使うことが必要である。また、直喩や隠喩、擬人法など、比喩の種類について整理して理解することも大切である。

例えば、表現の技法が用いられている文を、表現の技法を使わない文に書き換え、両者を比較することを通して、表現の技法の効果を確認する学習活動などが考えられる。また、話や文章の中で比喩が用いられているところを指摘し、比喩の種類ごとに分類して表現の仕方や効果の違いについて考えることも効果的である。

### 設問二

#### ①趣旨

◆事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる。

◆学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。《語彙》

#### ②解答類型と反応率

3 二	問題の概要	生徒数の割合	
		国東市	全国
	「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する		
◎1	1と解答しているもの	79.2	84.0
2	2と解答しているもの	10.7	6.6
3	3と解答しているもの	3.4	4.1
4	4と解答しているもの	6.7	4.9
5	上記以外の解答	0.0	0.0
6	無解答	0.0	0.3

◎は正解

◆分析と課題

○解答類型2～4の反応率の合計は20.8%である。このように解答した生徒は、「途方に暮れた」という言葉を一つの慣用句として理解し、文脈に沿って意味を捉えることに課題がある。解答類型2、3の生徒は、「途方に暮れる」の意味を理解しておらず、話の内容から推測した

ものと考えられる。また、解答類型4の生徒は、「途方に暮れる」の一部である「暮れる」から、意味を誤って捉えたものと考えられる。

### ③学習指導に当たって

#### 文脈における語句の意味を理解しながら文学的な文章を読む

文学的な文章を読み、豊かに感じたり想像したりする力を養うためには、まず、言葉を手掛かりにしながら文脈をたどり、内容を解釈することが必要である。その際、文章の中で使われている語句に関心を持ち、語句の意味や使い方に対する認識を深めることができるように指導することが大切である。

例えば、文学的な文章を読んで新しく出会った言葉を取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を考えたり、別の表現に言い換えたりするなどの学習活動が考えられる。その際、語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりすることなどを通して、話や文章の中で使うことができるように指導することも効果的である。